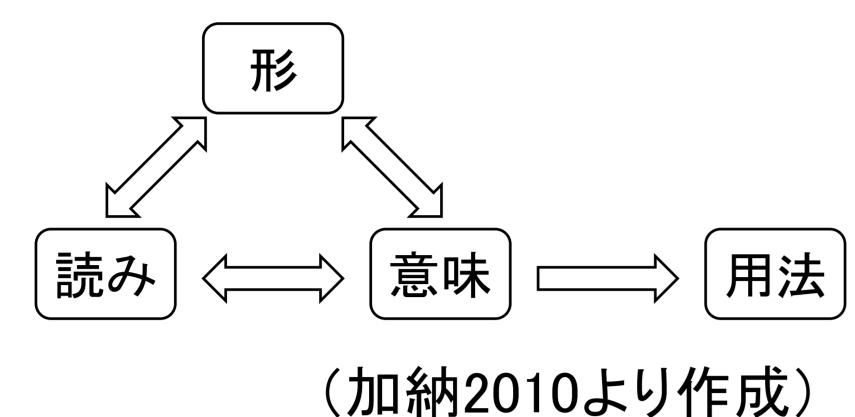
頻度順・語彙先習での中級漢字語彙学習

平山 允子

日本学生支援機構東京日本語教育センター

1. 背景 - 動機

東京日本語教育センター = 進学予備教育機関 1年/1年半で豊富な語彙を! → 学習負担 大 特に、漢字語



従来の漢字教育 = 漢字語彙同時学習 eg. 「極」積極的、消極的、南極、北極 「承」承知、承認、承る

★★★ 課題1 **★★★**

語の<u>出現頻度</u>を考慮する必要あり

	HH ** <u>HH *</u>			
積極的	7,587		積極的、	消極的、
承知	3,922		南極、北	極
承認	3,501		•	
消極的	603	≠	×学習、	効率×
南極	590	÷,		
承る	538	•	承知、承	認、承る
北極	342		-	

※「少納言」(http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/)調べ

★★★ 課題2 ★★★

対義語・類義語の同時学習に配慮する必要あり

"Dangers in associative activities"

対義語や類義語の同時学習は、学習を困難にする。 associative activitiesはグループ内のすべての語または一語を除くすべての語が十分学習されてから行うべき。

(Nation and Newton 1997)

! Danger! 「極」 積極的、消極的、南極、北極

! Danger! 「承」 承知、承認、承る

☆☆☆ ヒント ☆☆☆ 語彙先習で課題克服の可能性

「形」の学習を後回しにすると効果的

(非漢字圏:虫明・菅原2009、漢字圏:韓2014、孫2014)

4. 結果

- 語彙先習による混乱なし
- ・予習放棄なし
- まとめテスト得点率
 平均 86.9~95.6% 52.0
- 学期末試験「文字・語彙」偏差値平均 上昇

56.0 **→**上位→上位 群15名中の 55.0 偏差値平均 (n=6)54.0 ━中位→上位 | 群8名中の 偏差値平均 (n=4)51.3 51.0 50.6 **≠**50.0 50.0 15年12月 16年3月 16年7月 16年12月

2. 目的

- 語の出現頻度から語の学習順を決める
- それらの語の漢字表記に関わる部分の学習を後回しにする
- →漢字語の学習効率を高める

3. 実践の概要

【対象者】

2016年8~12月 発表者担任クラス

- 日本語上位クラスの1つ
- 学生14名
 - _ 2015年10月入学時から上位クラス 6名
 - _ 2015年10月入学時中位→上位クラスへ移動 4名 _ 2015年10月以外のコース途中で入学 4名

【教材】

「学習帳」

他クラスと同進度

- 学校教材掲載の漢字300、漢字語768を掲載
- ・「現代日本語書き言葉均衡コーパス」出現頻度順に 漢字語を提出(仮名書き、例文付き)
- 16~17語×48回

番号	ことば	例文	意味	漢字
1	ねんど	この土地に含まれる上等な <u>ねんど</u> は、 昔から陶器の生産に使われている。	clay	
2	すんぜん	彼はいつも9時10分のチャイムが鳴り終わる <u>すんぜん</u> に走って教室に入って来る。	right before	*
3	ばっする	悪い人を <u>ばっして</u> 平和な社会を守るために、法律がある。	punish; penalize	

他クラス同様に

・毎回、前回授業の小テスト

• 5回分の授業のまとめテスト

→次の授業で返却

【学習の進め方】

- 予習
 - _ 「ことば」「例文」を読む

- _「意味」を母語等で書く
- _ 「思怀」で可語寺で音へ
- _ 「ことば」「意味」の対応を覚える
- _ 「例文」を音読
- 授業(週4回、計51回)
- _ 予習した語の確認(「読み」→「意味・用法」→「読み」)

 1. 最先端の技術()、地震に強いビルが建てられた。 	えんせいする
2. 悪い人()平和な社会を 守るために、法律がある。	くしする
3. 塩を入れた水()ら、野菜 を入れていばない	じんもんする

- 1.この土地に含まれる上等な<u>ね</u>は、昔から陶器の生産に使われている。2. 最先端の技術を<u>くして</u>、地震に強いビルが建てら

3回前の学習語の漢字表記の学習(「形」)

1. 山の人達は昔から畑で野菜を育て、<u>鉄砲</u>で動物を撃って、食べ物を得てきた。
2. あの国は乱暴な政治を行い、国際社会から完全に<u>孤立して</u>しまった。
3. 外国の町で昔の友人に<u>遭遇して</u>、本当に驚いた

1.鉄砲 9.包丁
2.孤立 10.地盤
3.遭遇 11.礼儀
cf.遭う
4. 喫茶店 12. 潜む
cf. 潜る

_ プリントで復習(残りは自宅へ持ち帰り)

5. 考察

頻度順から「新出漢字→読み替え漢字」、語彙先習から「語→漢字」の分散学習が生じたことによる学習効率向上の可能性。

参考文献

加納千恵子(2010)「漢字学習の困難点—母語や文化圏による違い—」濱川祐紀代『日本語教師のための実践・漢字指導』くろしお出版 韓暁(2014)「日本語漢字単語の音韻処理における中国語漢字知識の影響に関する検討—中国語を母語とする中級日本語学習者を対 象として—」『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.367-368

孫淵(2014)「中国人学習者に対しての漢字語の『音』と『意味』の連結を強化する方法」『日本語教育方法研究会誌』21(2), pp.60-61 虫明美喜・菅原和夫(2009)「漢字学習における『語彙先習』の再検証」『日本語教育方法研究会誌』16(2), pp.40-41

Nation, I. S. P. and Newton, J. (1997) Teaching vocabulary. Coady, J. and Huckin, T. (eds.), Second language vocabulary acquisition: a rationale for pedagogy. Cambridge University Press